18 教育職員免許状

幼稚園や小・中・高等学校の先生になるには教育職員免許状を取得することが必要であり、そのためには、法律に定められた内容を学修することが求められます。

愛媛大学では、教職課程の質的水準の向上を目指して教職総合センターを設置し、全学的に責任ある指導体制のもと、教員養成に取り組んでいます。また、「教職課程のディプロマ・ポリシー（愛媛大学で教師を目指す者が卒業時に身につけておくべき資質能力）」を定めて到達目標を明示しています。「教職課程のディプロマ・ポリシー」を念頭に置きながら、「子どもとともに成長する先生」を目指し学修を積み重ねてください。

愛媛大学での教職履修の詳細については、教職総合センターホームページに掲載されている「先生になるためにー教職履修の手引きー」（令和８年度入学者適用）（以下、「先生になるために」という。）を必ず確認してください。

教職総合センターホームページ

「先生になるためにー教職履修の手引きー」

愛媛大学教職課程のディプロマ・ポリシー（DP）

1．教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している。
2．学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。
3．幼児・児童・生徒の発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
4．実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。
5．教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

取得できる教育職員免許状の種類

本学において、所定の授業科目の単位を修得し、学士の学位を取得した者は、各自の所属する学部及び学科・課程に定められた種類及び教科の教育職員免許状を取得することができます。原則として、所属する課程に定められた教育職員免許状以外は卒業時に取得することはできません。

工学部で卒業時に取得可能な教育職員免許状は次のとおりです。

・高等学校教諭一種免許状　理科
・高等学校教諭一種免許状　情報
・高等学校教諭一種免許状　工業

※「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律」、通称「こども性暴力防止法」の施行に伴い、教育実習等のこどもと関わる実習について犯罪事実確認が行われる可能性があります。特定性犯罪前科が確認された場合は実習を行うことができません。実習を行うことができない場合は、教育職員免許状の取得要件を満たすことができず、教育職員免許状を取得することはできません。

18－1　「教育職員免許状」の取得方法

本学の「教育職員免許状」の取得方法については、「先生になるために Ⅱ 教育職員免許状取得までの流れ」を確認してください。

（1）基礎資格　及び　（2）所定の科目（単位）の修得

教育職員免許法（以下、「免許法」とする）に定められた基礎資格及び最低修得単位数については「先生になるために Ⅳ. 基礎資格及び必要な単位数」を確認して下さい。

免許法の規定に基づき、本学では各区分の最低取得単位数を設定しています。
工学部で修得すべき単位数は次のとおりです。

免許状の種類	愛媛大学において修得すべき最低単位数				
	①教科及び教科の指導法に関する科目	②教育の基礎的理解に関する科目等	③大学が独自に設定する科目	合計	文部科学省令で定める科目
高等学校教諭一種免許状（理科）	24単位	24単位	11単位	59単位	8単位
高等学校教諭一種免許状（情報）	24単位	24単位	11単位	59単位	8単位
高等学校教諭一種免許状（工業）	24単位	24単位	11単位	59単位	8単位

「教職科目」

教職総合センターでは、教育職員免許状を取得する上で必要となる科目のうち、次の科目を教職課程における「教職科目」と位置づけ区分しています。

・「教科の指導法に関する科目（教科教育法など）」
・「教育の基礎的理解に関する科目等（教職基礎論や教育制度論、教育実習など）」
・文部科学省令で定める科目「教職日本国憲法」「スポーツと教育」

「教職履修ガイダンス」の受講と「教職履修希望届」の提出

教職科目は「教職履修ガイダンス」の受講と「教職履修希望届」の提出が履修条件となっています。「教職履修ガイダンス」は1年次前学期に実施されますので、教職を志望する場合は必ず受講し、ガイダンス受講後、「教職履修希望届」を提出してください。

■教科及び教科の指導法に関する科目の修得

○「理科」の教科及び教科の指導法に関する科目

		事　項	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理基礎Ⅰ	1	◎
			物理基礎Ⅱ	1	◎
		化学	物理化学Ⅰ	2	
			基礎有機化学	2	◎
			分析化学Ⅰ	1	
			分析化学Ⅱ	1	
			物理化学Ⅱ	1	
			量子化学	2	
			無機化学	2	◎
			有機化学Ⅰ	2	
			有機化学Ⅱ	2	
			高分子化学Ⅰ	2	
			機器分析	2	
			錯体化学	2	
			電気化学	1	
			有機化学Ⅲ	2	
			高分子化学Ⅱ	2	
			高分子化学Ⅲ	2	
		生物学	基礎生物学	2	◎
			生化学Ⅰ	1	
			生化学Ⅱ	1	
			分子生物学	2	
			分子細胞生物学	1	
		地学	地学Ⅱ	2	◎
		「物理学実験、化学実験、 生物学実験、地学実験」	応用化学実験Ⅰ	2	◎
			応用化学実験Ⅱ	4	
			応用化学実験Ⅲ	4	
	各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法１（２年前）	2	◎
			理科教育法２（２年後）	2	◎
	必要な単位数		上記授業科目から２４単位以上		

※上記授業科目から 24 単位以上取得すること。ただし、◎がついている科目は必ず含むこと。

※「教科に関する専門的事項」の必要単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に充てることができます。

※化学・生命科学コースでは、卒業時に教育職員免許状「理科」を取得した場合に限り、「教育の基礎的理解に関する科目等」「地学Ⅱ」「理科教育法１」「理科教育法２」のうち10単位までを卒業に必要な専門基礎科目または専門応用科目に含めることができます。

○「情報」の教科及び教科の指導法に関する科目

		事　項	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	サイバーセキュリティ	2	◎
			情報と職業	2	◎
		コンピュータ・情報処理	計算機システムⅠ	2	◎
			C プログラミング演習	1	◎
			情報工学実験Ⅱ	1	
			C プログラミング	2	◎
			数値最適化	2	
			データ構造とアルゴリズム	2	◎
			論理回路	2	◎
			計算機システムⅡ	2	
			情報数学	2	
		情報システム	データベース	2	◎
			情報工学実験Ⅰ	1	
			オペレーティングシステム	2	
			組込みシステム開発基礎	2	
		情報通信ネットワーク	情報ネットワーク	2	◎
			情報理論（情報）	2	
		マルチメディア表現・ マルチメディア技術	画像情報工学	2	◎
			ビジュアルコンピューティング	2	
			情報工学実験Ⅳ	1	
			ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
	各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）		情報科教育法１（３年前）	2	◎
			情報科教育法２（３年後）	2	◎
	必要な単位数		上記授業科目から２４ 単位以上		

※上記授業科目から 24 単位以上取得すること。ただし、◎がついている科目は必ず含むこと。

※「教科に関する専門的事項」の必要単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に充てることができます。

※コンピュータ科学コース・応用情報工学コース及びデジタル情報人材育成特別プログラムでは、卒業時に教育職員免許状「情報」を取得した場合に限り、「情報科教育法１」「情報科教育法２」の２科目の単位は、卒業要件の専門基礎科目または専門応用科目の修得単位として認められる場合があります。

○「工業」の教科及び教科の指導法に関する科目

		事　項	授業科目名	単位数	必修 選択必修	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工学リテラシー	2	◎	電気電子工学演習Ⅱ	1	
			化学基礎	2		過渡現象	2	
			情報工学入門	1		アナログ電子回路	2	
			機械製作実習	1		ディジタル電子回路	2	
			ＣＡＤ実習	1		電気電子計測	2	
			設計製図	2		制御工学	2	
			機械工学実験	2		プログラミング演習	1	
			材料力学Ⅰ	2		電気機器Ⅰ	2	
			材料力学演習	1		電気機器Ⅱ	2	
			熱力学Ⅰ	2		発変電工学	2	
			熱力学演習	1		送配電工学	2	
			機械力学Ⅰ	2		パワーエレクトロ ニクス	2	
			機械力学演習	1		半導体工学	2	
			流体力学Ⅰ	2		情報理論（電気）	2	
			流体力学演習	1		ディジタル通信	2	
			機械設計法	2		アナログ通信	2	
			応用力学	2		電気機器設計製図	2	
			応用数学Ⅰ（機械系）	2		電気法規及び施設管理	2	
			応用数学Ⅱ（機械系）	2		電波及び通信法規	2	
			技術英語（機械系）	2		基礎電磁気学	2	
			C言語基礎	2		くらしの中の電気	2	
			制御基礎理論	2		電気電子材料	2	
			制御基礎理論演習	1		電子デバイス	2	
			伝熱工学	2		通信工学概論	2	
			伝熱工学演習	1		電磁気学	2	
			ロボット機構学	2		電磁気学演習	1	
			材料力学Ⅱ	2		微分方程式（材料）	2	
			応用加工学	2		振動・波動	2	
			熱力学Ⅱ	2		基礎電気回路	2	
			機械力学Ⅱ	2		材料科学技術英語	2	
			流体力学Ⅱ	2		材料工学実験Ⅱ	1	
			制御・福祉工学	2		材料工学実験Ⅲ	1	
			メカトロ・人工知能工学	2		材料工学実験Ⅳ	1	
			流体工学	2		金属組織学Ⅰ	2	
			ロボット・生体工学	2		材料力学	2	
			エネルギーシステム工学	2		材料物理化学	2	
			知能システム学実験	2		金属組織学Ⅱ	2	
			電気電子工学概論	2		材料強度学	2	
			電気電子工学実験Ⅰ	2		セラミックス材料工学	2	
			電気電子工学実験Ⅱ	2		金属材料学	2	
			電気電子工学実験Ⅲ	2		固体物性工学	2	
			電気電子数学Ⅰ	2		結晶回折学	2	
			電気電子数学Ⅱ	2		電池材料学	1	
			電気回路Ⅰ	2		誘電体材料工学	1	
			電気回路Ⅱ	2		光材料工学	1	
			電気磁気学Ⅰ	2		金属接合工学	1	
			電気磁気学Ⅱ	2		磁性材料工学	1	
			電気電子工学演習Ⅰ	1		鉄鋼・非鉄製錬工学	1	

		事　項	授業科目名	単位数	必修 選択必修	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	半導体材料工学	1		技術英語（環境建設系）	2	
			熱力学	2		デジタルデザイン	2	
			力学	2		構造解析学	1	
			材料化学	2		河川工学	1	
			応用数学Ⅰ（環境建設系）	2		海岸工学	1	
			応用数学Ⅱ（環境建設系）	2		土木・建築防災工学	1	
			測量学	2		地盤工学	1	
			測量学実習	1		岩盤工学	1	
			環境建設工学実験Ⅰ	2		交通工学Ⅰ	1	
			環境建設工学実験Ⅱ	2		交通工学Ⅱ	1	
			構造力学Ⅰ及び同演習	3		コンクリート構造工学	1	
			構造力学Ⅱ及び同演習	3		社会基盤材料工学	1	
			水理学Ⅰ及び同演習	3		土木情報学	1	
			水理学Ⅱ及び同演習	3		生態系保全工学	1	
			土質力学Ⅰ及び同演習	3		建築設計製図Ⅰ	3	
			土質力学Ⅱ及び同演習	3		建築と社会のデザイン	2	
			コンクリート材料	2		建設分野のデジタル技術	2	
			土木計画学及び同演習	3		建築・都市・土木史	2	
			地球生態学	2		建築設計製図Ⅱ	3	
			建設情報マネジメント	2		建築計画Ⅰ	2	
		職業指導	職業指導概論（４年前）	2	◎			
		各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	工業科教育法１（３年前）	2	◎	工業科教育法２（３年後）	2	◎
		必要な単位数	上記授業科目から 24 単位以上					

※上記授業科目から 24 単位以上取得すること。ただし、◎がついている科目は必ず含むこと。

※「教科に関する専門的事項」の必要単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に充てることができます。

※高一種免（工業）の「工業科教育法１・２、教育の基礎的理解に関する科目等」の全部又は一部の単位は、当該教科の「教科に関する専門的事項」の単位で代替することができます。詳細は、工学部事務課学務チームに問い合わせてください。

1 主要スケジュール
2 愛大学生コンピテンシー
3 学部の教育の理念と教育方針
4 大学で学ぶ基本知識
5 単位制度
6 履修登録単位数の上限
7 履修コースの決定
8 教育目標、教育課程表（履修方法、科目ナンバリング）
9 履修登録手続き等
10 他教育コース・他学部授業科目履修
11 単位互換科目・他大学科目
12 受講上の注意事項
13 試験・成績
14 卒業見込・卒業研究履修要件
15 卒業認定・早期卒業
16 転学部
17 学びのサポート
18 教育職員免許状
19 その他の資格について
20 学内諸規程

■教育の基礎的理解に関する科目等

○教育の基礎的理解に関する科目等（理科・情報・工業）

区分	科目名	必要単位数	開講学年・クォーター								ポートフォリオ	備考
		高校	1年		2年		3年		4年			
		一種	前	後	前	後	前	後	前	後		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2			2						◎	
	教職基礎論	2		2							◎	
	教育制度論	2			2						◎	
	発達と学習	2			2						◎	
	特別支援教育の基礎・基本	2						2			◎	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	1					1				◎	
	教育とＩＣＴ活用	1					1				◎	
	特別活動論	1						1			◎	
	教育の課程と方法	2						2			◎	
	生徒指導・進路指導論	2						2			◎	
	教育相談論	2						2			◎	
教育実践に関する科目	教育実習事前・事後指導	1							1		○	
	教育実習４	2							2		○	2週間（60時間）
	教職実践演習（中・高）	2								2		
必要単位数の合計		24										

【注】修得した科目についてポートフォリオ（ラーニング・ログ◎、プラクティス・ログ○）を作成する必要があります。

高一種免（工業）の「工業科教育法１・２、教育の基礎的理解に関する科目等」の全部又は一部の単位は、当該教科の「教科に関する専門的事項」の単位で代替することができます。
詳細は、工学部事務課学務チームに問い合わせてください。

■大学が独自に設定する科目の修得

取得する免許状の「教科に関する専門的事項」から11単位以上修得してください。

■文部科学省令で定める科目の修得

以下の共通教育科目は文部科学省令で定める科目です。必ず修得してください。開講される年次・学期等については「8．教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング」で確認してください。

文部科学省令で定める科目（単位数）	左記に対応する本学の開講科目	単位数	区分
日本国憲法	教職日本国憲法※	2単位	教養科目
体育	スポーツ スポーツと教育※	1単位 1単位	基盤科目 教養科目
外国語コミュニケーション	English Communication Strategies	2単位	基盤科目
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報リテラシー入門Ⅰ 情報リテラシー入門Ⅱ	1単位 1単位	基盤科目
合計	8単位		

※「教職日本国憲法」は以下①、②を、「スポーツと教育」は以下①～③を満たすことが履修条件です。

① 「教職履修ガイダンス」に出席していること

② 「教職基礎論」を修得済みであること

③ 「スポーツ」を修得済みであること

※第Ⅰ期リフレクション・デイに参加し、教職e-ポートフォリオ（リフレクション・ログを含む）を提出していること又は工学部で「工業」の高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者については、「教職履修意思確認書」を提出していることを②の代替条件とすることができます。

（3）教職e-ポートフォリオ（教職課程学習ポートフォリオ）の作成

本学の教職課程では、Web上（Moodle）で①ラーニング・ログ（学習記録）・②プラクティス・ログ（実践体験記録）・③リフレクション・ログ（省察記録）の蓄積・整理する「教職e-ポートフォリオ」を作成します。作成方法などは「教職履修ガイダンス」やMoodle上で説明されています。 ①ラーニング・ログの作成が必要な科目及び単位表は以下のとおりです。

ラーニング・ログ対象科目、単位

・教育の基礎的理解に関する科目等の全て

・教科及び教科の指導法に関する科目（教科教育法など）表のなかで修得した「各教科の指導法」から4単位

・「教科に関する専門的事項」から16単位以上（◎がついている科目を必ず含む）

（4）リフレクション・デイへの参加

本学では、理論と実践を結びつけた学習を支援し実践力の高い教員を養成するため、リフレクション・デイ（第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅲ期）を設けています。リフレクション・デイでは、各自が作成した教職e-ポートフォリオを用いて、授業や様々な活動を通して学んだ知識や技能などの振り返り（省察）をします。リフレクション・デイの実施時期など詳細は「先生になるために Ⅴ 教職実践演習へ向けて」を確認してください。

すべてのリフレクション・デイに参加しなければ、4年次後学期に開講される「教職実践演習」の履修ができず、教育職員免許状を取得することができません。（ただし、工業の教育職員免許状取得希望者で「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修しない場合を除く）。